令和７年２月　教育委員会定例会会議録

１　開会の日時
　　令和７年２月13日（木）　　午前９時30分

２　出席委員

新　倉　　　聡	教育長	
荒　川　由美子	委　員	（教育長職務代理者）
澤　田　真　弓	委　員	
川　邉　幹　男	委　員	
元　木　　　誠	委　員	

３　出席説明員

教育総務部長	古　谷　久　乃
教育総務部総務課長	加　藤　博　昭
教育総務部教育政策課長	飯　田　達　也
教育総務部生涯学習課長	杉　山　賢　一
教育総務部教職員課長	筒　井　宣　行
教育総務部学校管理課長	二　見　　　裕
学校教育部長	坂　下　裕　一
学校教育部教育指導課長	鈴　木　史　洋
学校教育部支援教育課長	原　口　尚　延
学校教育部保健体育課長	小　田　耕　生
学校教育部学校食育課長	髙　橋　　　大
学校教育部教育情報担当課長	矢　本　　　歩
中央図書館長	柿　原　美　奈
博物館運営課長	北　山　　　剛
教育研究所長	梅　谷　尚　子

４　傍聴人　０名

５　議題及び議事の大要

○　教育長　開会を宣言

○　教育長　本日の会議録署名人に荒川委員を指名した。

○　教育長報告

（新倉教育長）

まずは、１月定例会から本日までの所管事項について報告をさせていただきます。

お手元の教育長報告資料をご覧いただければと思います。

１月16、17日に、中核市教育長会が秋田市で開催されましたので、参加させていただきました。当日、情報交換会の席上で、埼玉県川口市の教育長から、横須賀市の働き方改革について視察に行くという予定になっているとお話を伺いました。２月10日に川口市の副局長以下３名の方がこちらに視察をされ、教育政策など情報交換をしていただいたところでございます。

１月29日には、体力づくり実践研究発表大会がございまして、池上小学校、池上中学校のエリアにおいて２カ年の保健教育活動の報告、またその他の活動の報告をいただいたところです。

２月３日に、小中学校適正配置審議会を開会させていただき、先月ご報告させていただきました中央地区に関しての新たな計画につきまして、諮問させていただいたところです。

２月10日には、予算につきまして、県・市町村教育委員会教育長会議が開かれて、県予算等についての説明をいただいたところです。現在、詳細がこれから出てまいりますので、新年度予算の中で対応ができるように判断をしていくところです。

また、昨日は学校保健大会が開催されまして、学校保健功労者の方々の表彰と、実践研究を行ってきた野比東小学校６年生と北下浦中学校の委員会に対して表彰をさせていただいたところです。

またその折、県立保健福祉大学の鈴木志保子先生の講演と各学校との皆さんの中でコーディネートとシンポジウムを開かせていただき、よりよい保健体制を子どもたちに対してどうしていくかということの研究発表をさせていただいたところです。

２ページ目には、１月中に開催いたしました展覧会等を記載しております。多くはこの１年間の成果ということで、１月に発表させていただいているもので、読書感想画展等、児童生徒の造形作品並びに児童生徒の書写作品展が１月中に

開催されているところでございます。
　私からの報告は以上です。

（質問なし）

　教育長　報告事項を聴取することを宣言

　報告事項（１）『令和７年度指導の目標・指導の重点について』

（教育政策課長）
　教育政策課から、令和７年度指導の目標・指導の重点についてご報告をさせていただきます。
　説明資料のほう、１でございます。
　趣旨についてご説明させていただきます。
　本日ご報告させていただきます、指導の目標、指導の重点につきましては、横須賀市教育振興基本計画の方針に基づいて設定するもので、指導の目標は、各学校と教職員に対して本市の目指す方向性を示し、子どもたちの指導に生かすものでございます。
　また、指導の重点は、指導の目標を踏まえ、本市の子どもたちにとって優先的に取り組むべき課題として、学校と教育委員会が一体となって取り組むべき内容として示しているものでございます。
　続いて、２、令和７年度指導の目標・指導の重点の変更点になります。
　この指導の目標と指導の重点につきましては、教育振興基本計画を基に設定し、毎年度教育委員会事務局各課の指導主事により構成する、指導の目標・重点検討会議及び合同指導主事会議におきまして、検討や協議を重ね、令和７年度におきましては、結論といたしまして、指導の目標、指導の重点ともに変更点はございません。
　参考に、資料の目標を資料１として、また、指導の重点を資料の２として添付してございます。また、資料の３につきましては、各学校に配布する予定のポスターになりますので、後ほどご覧ください。
　説明資料のほうにお戻りいただきまして、説明資料の３、周知の方法になります。
　令和７年度指導の目標、指導の重点につきましては、教職員へ配布予定の指導の必携に掲載するとともに、資料の３、掲示用ポスターを作成し、各学校に配布することにより周知を図っていきたいと考えています。

また、学校や教職員への理解を図るために、校長会や各種研修会等におきまして説明してまいりたいと考えております。
最後に、４、取り組みへの支援をご覧ください。
取り組みの支援といたしましては、各課の指導主事が各学校の作成する学校重点プランへの指導、助言を行っていきます。
また、教育指導課指導主事の学校訪問等につきましては、学校経営や教育課程に関する指導、助言を行っていきたいと考えております。
以上で、令和７年度指導の目標・指導の重点についてのご報告を終ります。

（質問なし）

報告事項（２）『行事等の成果について』
ア　第24回全国中学生創造ものづくり教育フェア全国大会の結果について

（教育指導課長）
第24回全国中学生創造ものづくり教育フェア全国大会の結果について報告いたします。
資料をご覧ください。
12月に群馬県で開催されました関東甲信地区大会で、創造アイディアロボットコンテストを勝ち抜いた長井中学校によるチームが、令和７年２月１日の土曜日に、東京都立六郷工科高等学校を会場にして行われた全国大会に出場しました。
応用部門に出場した長井舜武号チームは、競技成績としては予選リーグ敗退という結果でしたが、ロボットのアームを伸ばしてもバランスが取れるように重りのつけ方を工夫していたことや、一度に３つのアイテムを保持することができるアームの構造などが評価され、審査員特別賞を受賞しました。
報告は以上です。

（質問なし）

報告事項（２）『行事等の成果について』
イ　令和６年度横須賀市学校教育賞審査結果について

（教育研究所長）

教育研究所からは、令和６年度横須賀市学校教育賞について報告いたします。

横須賀市学校教育賞は、教職員を対象に、教育実践や学校現場への企画提案を広く募り、優れた実践論文や工夫された企画提案に対して賞を授与し、学校教育や教育研究の振興、発展を図る事業です。

募集は２部門あり、教育実践に関わる研究論文の研究部門と実践報告及び企画提案に関わる実践・企画部門です。

今年度は、実践・企画部門に３点の応募がありました。

審査の結果、資料に記載のとおりそれぞれの賞が決まりました。

まず、教育振興賞です。この賞は、実践・企画部門の最高賞に当たります。

今回、追浜中学校の事務主査が受賞しました。

研究内容は、ＩＣＴを活用した教職員の出退勤記録の管理や長期休業中の動向表の開発などです。

事務職員としての学校運営にも積極的な参画と、特に教頭職を助ける働き方改革につながる優れた実践的企画提案は高く評価されました。

次に、努力賞です。努力賞は、教育振興賞に次ぐ賞です。

今回、野比小学校の２人の教諭が共同研究として受賞しました。

研究内容は、児童同士の認め合い、意見を出し合うことが抵抗なくできるような活動を通し、対話の促進や心理的安全性を向上させ、人間関係づくりに効果をもたらす取り組みです。授業における対話的な学びに向かう実践やこれまでの研究の蓄積が評価されました。

次に、奨励賞です。奨励賞は、努力賞に次ぐ賞です。

今回、高坂小学校の教諭が受賞しました。

研究内容は、算数科において統計的なデータ処理を扱った授業実践です。

清掃活動における雑巾がけを子どもたちが毛嫌いせず行うために、雑巾がけの正しい姿勢を維持することが必要と考え、新体力テストの数値の向上と算数の授業とを関連づけて実践を行いました。

一部研究理論に誤った認識はあったものの、現在求められている授業であって、データの収集、整理、表現、分析といった一連の統計的な処理の過程が評価されました。

以上３作品、４名の入賞者に対しては、１月24日に表彰式を行い、教育長から、賞状及び副賞を授与いたしました。

本年度の審査結果は、既に市内全校に通知しております。

また、これらの研究論文は、教育研究所イントラネットにて掲載して発信し、教育研究所の研修などの折に紹介をしていきます。

以上、横須賀市学校教育賞についての報告といたします。

（荒川委員）
　３点の応募があったということなのですけれども、これは例年から見て少ないのでしょうか。ちょっとそれをお聞きしたいと思います。

（教育研究所長）
　昨年も３点の応募はありました。
　その前は１点です。その前はございませんでした。
　ですので、ここ２年間で３点ずつ、６点です。

（荒川委員）
　ありがとうございます。

（澤田委員）
　参考までにお聞かせいただきたいのですが、研究部門と実践・企画部門の応募の違いについて教えてください。今年度のタイトルを見ますと、実践・企画部門のこの内容は、研究部門でもいいのではと思いましたので、お尋ねしました。応募にあたって何か条件があるのでしょうか。

（教育研究所長）
　どちらも実践を大事にはしているのですけれども、研究部門（研究論文）については、やはり研究仮説を立てて、実証、検証するという、論文の形というものが重視されているところはあります。
　ですので、実践・企画部門のほうが日頃の実践を記述しやすいという傾向にあると思います。

（新倉教育長）
　なかなか、そこの区分というのは難しいのかなと思うのですが、例えば応募してきたときに、あなたの場合はこちらのほうが無難だとかという指導はするのですか。

（教育研究所長）
　特に指導しておりません。
　学校から出てきて、学校長の推薦を受けておりますので、その部分での指導はしておりません。

（理事者報告なし）

（委員質問なし）

○　教育長　閉会を宣告

６　閉会及び散会の時刻
　　令和７年２月13日（木）　午前９時45分

横須賀市教育委員会
教育長　新　倉　　　聡